

通常の学級における発達障がい等支援事業 第1回地区別事業報告会(泉北地区)

平成25年8月1日15:15～16:45 (和泉シティプラザ 生涯学習センター)
当日参加者77人(幼稚園・こども園20 小学校39 中学校9 その他9)

1. 実践報告

<和泉市立北松尾幼稚園> 環境の見直しと子どもとの信頼関係

年度当初から、新しく入園する子どもの受け入れ態勢を整えるために、園の教室環境等の見直しを行った。また、北松尾小学校の支援教育コーディネーターの助言も受け、視覚支援のための教具作りや教室外の構造化等にも取り組んだ。

5月のアドバイザースタッフからの指導では、構造化等のハード面だけでなく、「ほめ方」「話し方」「注意の仕方」等のソフト面の改善について具体的な助言をいただいた。

今後は助言いただいた内容をもとに「ルールをはっきり」「注意を与える基準を伝える」「一貫した指導」「集中する時間を確保する」ことを意識して取り組みをすすめたい。



<和泉市立北松尾小学校> 子どもが満足する授業・集団づくり

今年度の研究テーマは「通常の学級において、すべての児童にとって満足することができる授業づくり、学級集団づくりに関する実践研究を行う」である。授業のユニバーサルデザイン化、教師主導型から課題解決型への転換、各教科等の内容と指導の系統性を重視した指導計画や教材研究の推進、児童個々の特性理解と個別支援、道徳や人権教育の推進等に取り組んでいる。

また、毎朝「言語活動」と「運動」に取り組む「朝のダブルモジュール」や支援学級と生徒指導担当が連携した「元気アップ教室」等、特色ある取り組みも行っている。

アドバイザースタッフからの指導では「秩序のある安全安心な学級づくり」が大切であり、そのためにも教師と子どもとの間に信頼関係を築くことが重要であることを示唆していただいた。



2. 指導助言

(指導助言のポイント)

- ◆ 支援が必要な子どもの多面的な理解の重要性
- ◆ 自尊感情と自己効力感
- ◆ 保育・授業づくりの方向性
 - ・ 焦点化
 - ・ 視覚化
 - ・ 共有化
- ◆ 指導方法の具体的な工夫



通常の学級における発達障がい等支援事業

第2回地区別事業報告会(泉北地区)

平成26年3月10日15:30~17:00 (和泉シティプラザ)

当日参加者74人(幼稚園・こども園17 小学校42 中学校11 その他2)

1. 実践報告

<和泉市立北松尾幼稚園> ハード面からソフト面へ

- ・研究の方向性を教室の構造化等のハード面の充実から保育内容のユニバーサルデザイン化等のソフト面の研究へ移行した。
- ・これまでのアドバイザースタッフからの指導助言にあった「教室内の刺激を減らし、教員の指示を非言語化する」という方向で取組みを進めた。
- ・具体的には、ビデオを活用することで日常的に相互参観しにくい「朝の会」等の場面の子ども様子を教員全体で共有し、効果的な取組みを検討した。その後、実際に実践した様子もビデオで撮影して全体で共有することで、PDC Aサイクルを意識した取組みとなった。
- ・今後も子ども主体の保育の実現に向け研究を進めたい。



<和泉市立北松尾小学校> 3本の柱を中心に

- ・『子ども主体の授業づくり(授業改善)』
単元を貫く言語活動・「思考ツール」の開発
「大阪の授業STANDARD」に基づく授業改善
- ・『子どもたちが安心して生活できる学級づくり(学級経営改善)』
道徳教育、人権教育の推進・全校的な学級規律の確立
セーフティネットの強化(保健室・元気アップ教室)
- ・『特色ある学校活動の推進』
朝のダブルモジュール・元気アップ教室の開設と運営
帝塚山学院大学大学院との連携
- ・客観的な効果測定を実施し、効果の実証と取組みの方向修正を行うことで、すべての子どもが学級や学校生活に満足することをめざしたい。
- ・授業改善と「思考ツール」の開発を通してすべての子どもの思考力・判断力・表現力を伸ばす授業をめざす。



2. 指導助言

- ◆すべての子どもにとって「わかる・できる保育や授業」を展開するために、教員一人ひとりの意識を変えていくことが必要。発達障がいの特性がある子どもたちの得意なことや苦手なことを把握して関わり方や指導法を見直すことが大切である。具体的には教員の言葉の数を減らし、子どもが主体的に活動できる時間を保証する等。
- ◆日々の取組みを効果的に検証し、次の支援につなげるためにもビデオの活用は有効である。



<指導助言者>
泉北地区アドバイザースタッフ
ブル学院大学 松久 眞実 先生

通常の学級における発達障がい等支援事業

第3回地区別事業報告会(泉北地区)

平成26年10月31日15:15～17:00 (和泉市立北松尾小学校)

当日参加者117人(幼稚園・こども園38 小学校58 中学校6 その他15)

1. 公開保育・授業

＜和泉市立北松尾幼稚園＞ すべての子どもにとってわかる・できる保育・集団づくり

4才もも組:造形あそび

4才ばら組:制作あそび

5才そら組:運動あそび

5才にじ組:ごっこあそび

・アドバイザースタッフの松久准教授から提案いただいた「保育づくりのポイント」の中から、本時に意識する項目を設定し、全体に対する支援とともに個に応じた支援を行う。
・保育の中に「非言語」による指示を取り入れ、言葉による刺激を減らすことをめざした。

＜和泉市立北松尾小学校＞ すべての児童が満足する授業づくり

・すべての教科において、言語活動の充実、パフォーマンス課題の設定をもとに、「大阪の授業STANDARD」に準じた授業の構築をめざした。

・すべての児童が主体的に学ぶ授業をめざし、思考場面における支援として「思考ツール」の活用を研究した。

＜思考ツール＞

- 1 比較する(くらべる)
- 2 結びつける
- 3 順序立てる
- 4 多面的に考える
- 5 抽象化する(まとめて考える)
- 6 具体化する(くわしく考える)
- 7 連想する

2. 全体会

●北松尾幼稚園

- ・ハード面として、園の環境の見直し
- ・言葉の刺激を減らす等のソフト面の研究→「非言語」による指導を導入
- ・園内研修の充実→教師間の連携のため「ビデオ」を活用
- ・「運動プログラム」を中心とした小学校との連携

●北松尾小学校

- ・子ども主体の授業づくり
- (大阪の授業STANDARD、松久准教授のアドバイスをもとにした授業のユニバーサルデザイン化、思考ツールの活用)
- (発達段階や特性に応じた個別支援)
- ・子どもたちが安心して生活できる学級づくり(児童アンケートに基づく学級の現状理解と改善)
 - ・特色ある学校活動
- (朝のダブルモジュール)(元気アップ教室)(保幼小連携)(外部機関との連携)

3. 指導助言

◆すべての子どもにとって「わかる・できる保育や授業」を展開するために「授業(保育)づくりのポイント(試案)」「授業(保育)づくりシート」の活用を提案。

＜指導助言者＞
泉北地区アドバイザースタッフ
ブール学院大学 松久 眞実 先生

